

部局目標 [2020年度]

局名 仙台拠点放送局

項番	目標	主な取り組みのポイント(指標等)	経営計画の重点方針
1	「たくさん提案する 挑戦にリスペクト！」	<ul style="list-style-type: none"> ◇すべての職員が、放送・サービスの充実や業務の改善等につながる提案をすることを目標に掲げ、挑戦する。 ◇互いの挑戦を共有する仕組みを作り、リスペクトする。 	<ul style="list-style-type: none"> “公共メディア”への進化 多様な地域社会への貢献 未来へのチャレンジ <input checked="" type="checkbox"/> 視聴者理解・公平負担を推進 創造と効率、信頼を追求 <input checked="" type="checkbox"/>
2	「東日本大震災から10年」を多角的に発信し、次世代に伝承していきます。	<ul style="list-style-type: none"> ◇「震災10年」の現状と課題を、ニュース・番組、地域発ドラマ等で多角的に発信する。 ◇産官学民と連携して震災の記憶を次世代に伝えていく取り組みを推進する。 ◇東北と五輪のつながりやホストタウンの動きなどを発信、「復興五輪“への取り組みを被災地から伝える。 ◇「ポスト震災10年」の放送・サービスを構想・展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> “公共メディア”への進化 多様な地域社会への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 未来へのチャレンジ 視聴者理解・公平負担を推進 創造と効率、信頼を追求
3	放送に加えネット・リアルの方も活用して、地域に寄り添い、地域の「知りたい」に応える、公共メディアへの進化をめざします。	<ul style="list-style-type: none"> ◇新型コロナウイルスの感染拡大防止に努める。地域社会・経済への影響も含め、情報を持続的かつ的確に発信する。 ◇災害時、緊急時の放送継続とマルチ発信体制を強化し、安全・安心の拠点としての役割を果たす。 ◇地域の関心や課題を掘り起こし、地域と共に解決への道を考え提示する。 ◇ブロック放送と県域放送の新たな可能性を追求し、ベストミックスを進化させる。 ◇放送に加え、ネットやリアル空間、営業活動も活用して、視聴者とのコミュニケーションを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> “公共メディア”への進化 <input checked="" type="checkbox"/> 多様な地域社会への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 未来へのチャレンジ 視聴者理解・公平負担を推進 <input checked="" type="checkbox"/> 創造と効率、信頼を追求
4	「人を育てる東北 人が育つ東北」を深化させます。	<ul style="list-style-type: none"> ◇ブロックでの取材や番組制作、イベント等に参加する機会を確保し、域内若手職員の育成を図る。 ◇域内各局との連携を密にして、研修・育成施策を強化し、専門スキルの向上を図る。 ◇メディア動向の最先端を体感する機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> “公共メディア”への進化 <input checked="" type="checkbox"/> 多様な地域社会への貢献 未来へのチャレンジ <input checked="" type="checkbox"/> 視聴者理解・公平負担を推進 創造と効率、信頼を追求
5	「ポスト震災10年」の地域サービスを持続可能にする東北ブロックの業務推進体制を構築し、経営資源の最適配分をめざします。	<ul style="list-style-type: none"> ◇東北ブロックのマンパワーの現状を把握し、適正な要員配置を設計する。 ◇決算分析を精査し、2020年度以降のより効率的・効果的な予算執行、予算編成に生かす。 ◇人口減少、世帯減少を見ずえた東北ブロック全体の営業活動のあり方を検討・開発する。 ◇仙台局の組織体制を検討し、必要に応じて見直す。 ◇関連団体との協業体制を検討し、必要に応じて見直す。 ◇自由闊達な職場環境を構築し、コンプライアンスファーストを徹底させる。 	<ul style="list-style-type: none"> “公共メディア”への進化 多様な地域社会への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 未来へのチャレンジ 視聴者理解・公平負担を推進 創造と効率、信頼を追求 <input checked="" type="checkbox"/>

部局目標 [2020年度]

局名	秋田放送局
----	-------

項番	目標	主な取り組みのポイント(指標等)	経営計画の重点方針	
1	もっと 秋田に安全と活力を 県民の命と財産を守る報道の強化とともに、秋田の魅力と課題に向き合う放送をさらに充実させます	◇いざという時の災害報道の強化に全局体制で取り組むとともに、減災・防災につながる発信に日常的に努めます。 ◇秋田の今日的課題の本質を捉え、解決策を探るタイムリーで高質な放送に力を入れます。 ◇4K、8K、デジタル等も活用しながら、秋田の様々な魅力を掘り起こし、地域が元気になれる放送を充実させます。 ◇東京オリンピックパラリンピックに関連する県内の動きを積極的に伝え、地域の盛り上がりを後押しするとともに、共生社会へのメッセージを発信します。	“公共メディア”への進化	✓
			多様な地域社会への貢献	✓
			未来へのチャレンジ	✓
			視聴者理解・公平負担を推進	✓
			創造と効率、信頼を追求	
2	もっと 地域をつなぎ、役立つ存在に 視聴者、地域とのつながりを強め、秋田の未来をともに切り拓く“ハブ”となります	◇メディアパークを通じてNHKならではの交流の場を提供し、地域の賑わい創出に貢献します。 ◇秋田の未来を担う若い世代とのつながりを深め、彼らを応援する放送やイベントを充実させます。 ◇地域社会や地域メディアと連携し、課題解決や活力創出につながる発信を強化します。 ◇地域ドラマの制作や関連イベントに多くの県民に参加してもらい、地域の元気につなげるとともに、受信料制度と公平負担へのさらなる理解促進を図ります。	“公共メディア”への進化	✓
			多様な地域社会への貢献	✓
			未来へのチャレンジ	✓
			視聴者理解・公平負担を推進	✓
			創造と効率、信頼を追求	
3	もっと 信頼を確かなものに コンプライアンスの徹底、働き方改革の定着、組織の効率化を図り、より信頼される放送局をめざします	◇一人一人が公共放送人としての倫理観を高め、コンプライアンスを徹底します。 ◇働き方改革を定着させ、やりがいのある健全な職場環境を確立します。 ◇部署の垣根を超えた連携を進め、より効率的で柔軟な組織をめざします。 ◇定型業務の集約や標準化を進め、より高度な業務にシフトすることで生産性を高めます。 ◇人口減少を見据えた営業戦略を開発し、公共メディアの基盤を守ります。	“公共メディア”への進化	✓
			多様な地域社会への貢献	
			未来へのチャレンジ	✓
			視聴者理解・公平負担を推進	✓
			創造と効率、信頼を追求	✓

部局目標 [2020年度]

局名	山形放送局
----	-------

項番	目標	主な取り組みのポイント(指標等)	経営計画の重点方針	
1	地域社会との連携を深め、効果的・効率的に地域放送や視聴者コミュニケーションを充実させます。	<ul style="list-style-type: none"> ◇会館外サテライトロビー設置で視聴者コミュニケーション強化 ◇自治体などとの連携で地域サービス強化 ◇夕方6時台の「やままる」、金曜730「やまコレ」のパワーアップで地域放送を充実 ◇地域の課題に切り込み、魅力を発信し、地域に貢献 ◇放送、事業、ネット、4K8K技術の連動による効果的な発信 	“公共メディア”への進化	✓
			多様な地域社会への貢献	✓
			未来へのチャレンジ	✓
			視聴者理解・公平負担を推進	✓
			創造と効率、信頼を追求	
2	あらゆる手段を駆使して、命と暮らしを守る防災・減災報道を展開します。	<ul style="list-style-type: none"> ◇テレビ、ラジオ、L字、データ放送、ネットを駆使した迅速で正確な緊急報道の展開 ◇地域に即した効果的な「命を守る呼びかけ」の実施 ◇自治体などとの災害連携による緊急報道体制の強化 	“公共メディア”への進化	✓
			多様な地域社会への貢献	✓
			未来へのチャレンジ	
			視聴者理解・公平負担を推進	
			創造と効率、信頼を追求	
3	既存業務を徹底的に見直して、業務改革を断行し、経営資源を重点項目にシフトします。	<ul style="list-style-type: none"> ◇効果の少ない既存業務の廃止、重点項目へのシフト ◇マルチユースの徹底による効率的な放送サービスの実施 ◇地域に貢献するためのよりよい組織体制の構築と人材育成 ◇視聴者理解・公平負担の推進 ◇コンプライアンスの徹底 	“公共メディア”への進化	
			多様な地域社会への貢献	✓
			未来へのチャレンジ	
			視聴者理解・公平負担を推進	✓
			創造と効率、信頼を追求	✓

部局目標 [2020年度]

局名	盛岡放送局
----	-------

項番	目標	主な取り組みのポイント(指標等)	経営計画の重点方針	
1	東日本大震災から10年の節目に向けて復興状況を総括。被災体験を次の世代に伝える取り組みを進めます。「命と暮らしを守る」ため、防災・減災報道、新型の感染症をめぐる情報発信を強化します。	◇震災10年に向け、ニュースなどで年間を通じて様々な角度から復興の現状を検証し、番組展開を図る ◇子どもに焦点を当てた被災体験継承のプログラムなど、震災の教訓伝承につながる取り組みを進める ◇防災・減災報道は、L字放送を含むテレビ、インターネット、ラジオなど、あらゆるメディアを駆使し、県域での情報発信を強化する ◇相次いだ豪雨災害の経験や教訓を継続的に取り上げる ◇新型コロナウイルス感染症の発生状況を踏まえ、地域社会や経済への影響を含め幅広く報道する ◇定期的に簡易中継を実施するなどの訓練や機器の整備を進め、災害時等に備える	“公共メディア”への進化	✓
			多様な地域社会への貢献	✓
			未来へのチャレンジ	✓
			視聴者理解・公平負担を推進	
			創造と効率、信頼を追求	✓
2	様々な分野での岩手県ゆかりの人たちの活躍、地域の魅力の発信に取り組むとともに、地域の課題に向き合い、未来を考える報道を展開します。	◇ラグビーW杯1周年にあわせて、大会のレガシーをどのように継承するか検証する ◇延期となった東京オリンピック・パラリンピックに向け、地元関係選手やホストタウンの取り組みなどを継続的に取材していく ◇自然や食、伝統芸能など、岩手ならではの魅力を全国・世界に発信する ◇経済や学術、文化、スポーツなど、様々な分野での地元関係者の取り組みを発信する ◇ニュースや番組などで、岩手の課題の解決策と未来を考える報道に取り組む	“公共メディア”への進化	✓
			多様な地域社会への貢献	✓
			未来へのチャレンジ	✓
			視聴者理解・公平負担を推進	
			創造と効率、信頼を追求	
3	地域の放送局として視聴者に身近な情報発信や視聴者コミュニケーションを強化。効果的・効率的な発信で、岩手に貢献します。	◇610では、その日のメインニュースを掘り下げて伝えるニュー スアップや知って得する情報を強化 ショート動画の新コーナーを立ち上げ、ネットも活用し若年層へのリーチを広げる ◇730は年間10本程度を放送。新作は5本程度を目指す 610や管中・全中などへのマルチ展開を進める ◇公開番組やニュース、番組と連動したイベントなどで、視聴者との接点を増やす ◇視聴者コミュニケーションと連動した営業活動で受信料公平負担推進	“公共メディア”への進化	✓
			多様な地域社会への貢献	✓
			未来へのチャレンジ	✓
			視聴者理解・公平負担を推進	✓
			創造と効率、信頼を追求	✓

部局目標 [2020年度]

局名	福島放送局
----	-------

項番	目標	主な取り組みのポイント(指標等)	経営計画の重点方針	
1	東日本大震災と福島第一原発事故10年に向けて、課題と復興に関する情報を掘り下げて伝えるとともに、福島の魅力を広く発信し、風評被害の払しょくに寄与します。令和元年の台風19号等を教訓に、防災・減災に資する情報を放送・ネット等の多様な手段で届け、人々の暮らしと安全を守ります。	◇タ方のニュース番組「はまなかあいづTODAY」の内容の更なる充実。 ◇県域番組の本数増加による地域の魅力発信の強化と課題解決への貢献。 ◇震災・原発事故10年に向けた質の高い報道・番組の展開。震災と原発事故の記憶を継承する取り組みの強化。 ◇福島での競技開催や県出身選手の活躍への期待が高まる東京オリンピック・パラリンピック関連報道の強化。 ◇放送・通信融合時代にふさわしいネットを通じたニュース・番組発信の強化。 ◇国際放送を通じた県産品の風評被害の払しょくおよび福島の魅力の発信の強化。	“公共メディア”への進化	✓
			多様な地域社会への貢献	✓
			未来へのチャレンジ	✓
			視聴者理解・公平負担を推進	
			創造と効率、信頼を追求	
2	事務部門改革を推進し、それによって生じたパワーを局の戦略部門の強化に傾注します。連続テレビ小説「エール」を使った放送・ネット・イベントによる視聴者サービスを展開し、視聴者の期待に応えます。地元紙や民放、自治体等とのコラボを発展させて新たなコンテンツを開拓することで、「地域のハブ」としての存在感を示します。	◇業務の仕分けや効率化で生じるマンパワーを使った戦略機能や視聴者コミュニケーション機能の強化。 ◇決算の分析を予算編成・運用に活用するためのPDCAサイクルの強化。 ◇連続テレビ小説「エール」関連の放送・ネットの企画やイベント展開による福島局の存在感アップ。 「エール」等を通じた地元紙や民放、自治体とのコラボの強化による多様なコンテンツや企画の開発。	“公共メディア”への進化	
			多様な地域社会への貢献	✓
			未来へのチャレンジ	✓
			視聴者理解・公平負担を推進	
			創造と効率、信頼を追求	✓
3	全局が一丸となって受信料制度を理解していただくための活動を推進します。それによって営業業績を向上させ、受信料の公平負担を徹底させます。	◇各部の連携を強化しての営業業績の向上。 ◇法人委託等によるより効率的な営業活動の推進。 ◇営業部と各部の連携強化による連続テレビ小説「エール」や「はね駒」を積極的に活用した営業活動の展開。	“公共メディア”への進化	
			多様な地域社会への貢献	
			未来へのチャレンジ	
			視聴者理解・公平負担を推進	✓
			創造と効率、信頼を追求	

部局目標 [2020年度]

局名	青森放送局
----	-------

項番	目標	主な取り組みのポイント(指標等)	経営計画の重点方針	
1	青森のみなさまの身近にありつづけ役に立つ放送を提供	◇安全・安心の拠点として正確で迅速な緊急報道を行い、災害や疫病など発生時に様々な手段で情報提供 ◇過去の大規模な災害や事故などで得た知見を風化させない、未来の防災や減災につながる情報を提供 ◇青森の豊かな自然や文化、伝統、産物などの魅力を、県内に伝えるとともに、全国、海外に向け広く発信 ◇要望の強い地域イベントや自治体情報などの提供や、新たな時事用語の解説により、地域の暮らしに貢献 ◇災害時に対応できる体制や手順を常に確認し、定期的な訓練や設備の保守整備を継続し放送の安定を確保	“公共メディア”への進化	
			多様な地域社会への貢献	✓
			未来へのチャレンジ	✓
			視聴者理解・公平負担を推進	
			創造と効率、信頼を追求	
2	青森を守り育てる地域のハブとなることを目指す	◇地域活性化や人口減少、高齢化、青函連携など、地域課題を多角的に捉え解決策を探り分かりやすく提言 ◇グループインタビュー結果などで地域指向を調査・分析し、ロイヤルカスタマーに加え新たな接触者層を開拓 ◇地銀のシンクタンクなどと連携し、地元企業・自治体のニーズやネット時代の情報発信のあり方を検討 ◇U・ターンや夢に挑む若者や、地元的情熱的な取り組みを掘り起こし、地域に元気をもたらす情報を提供 ◇地域に根差した営業活動と丁寧な説明、要望に応えるイベントで、受信料制度への理解や公平負担を向上	“公共メディア”への進化	✓
			多様な地域社会への貢献	✓
			未来へのチャレンジ	✓
			視聴者理解・公平負担を推進	✓
			創造と効率、信頼を追求	
3	効率的な業務運営と透明性が高い組織を目指す	◇地域指標結果や営業目標達成、視聴率など重要業績評価指標を常に意識し、計画策定と効果検証を実施 ◇自治体・事業者との連携や新機軸の活用により、地域の営業成績や接触率に実効のあるイベントを実施 ◇新たな事業を可能とする効率的な業務体制とするため、既存業務の標準化や集約化、委託の精査を実施 ◇公共メディアへの進化をとげ、より豊かな創造性を発揮していくため、働き方改革や業務改革を推進 ◇コンプライアンスやリスクマネジメントを向上させ、垣根を越え風通しを良くし、健全な組織を運営	“公共メディア”への進化	✓
			多様な地域社会への貢献	✓
			未来へのチャレンジ	✓
			視聴者理解・公平負担を推進	
			創造と効率、信頼を追求	✓